

〈インタビュー記録 4班〉

対象者：W氏

テーマ：周りに流されずに積極的に

インタビュアー：小川 拓也・戸川 友希

◎周りに流されずに積極的に

職種の絞込みと決定

私は、販売系の総合職、スーパーの会社に内定をもらったんですけど、就職活動の最初の段階では、職種を特に何かに絞ってするっていうのはあまり自分の中では考えていませんでした。職種とか業種とかを選考中とかでも同じ就活生とかに会う時とかに、どこのどんな職種とか業種とか受けてますかって聞かれることが多いんですけど、そういう時とかもこう色々、なんかひとつの職種に絞ってしまうのは惜しいって思ったので、特に絞ってするっていうことはしてませんでした。

地域システムでの経験

地域システムとしての経験もすごく活かしたというか、私は地域システムっていうので職業を絞ることはしなかったんですけど、その地域システムでやってきたまちづくりとかそういう、Y先生のもとで関わってきたまちづくりとかそういうことだとか、あと自分が社会学で学んできたことっていうのは、その就活をするにあたってすごい役に立ちました。そういう経験の上に今の自分とかがあったので、それを基盤に就活をずっと続けてたと思います。あと面接やエントリーシートとかを書くときに、絞りではないんですけど、大学でやってきたこととかは、自分の今の考えの芯になっているものとか、地域システムのコースでやってきたことで得られたこととか、考えたこととかもあったので、そういうのを書いたり言ったりはしてました。

適性検査について

適性検査とかは一応、企業を受ける前の段階とかでもやりました。でも就活をやってる間もちょこちょこ何回か。自分にどの職種が向いてるとか自分はどういう性格かみたいなのを就活サイトとか、マイナビみたいなのでやってる時にもちょっと変わってきたりして、自分はマイペースだからこういうのが向いてるっていうのが出るときもあれば、すごく積極性があるのでこういうのが向いてるっていうので、自分の気分にもうらがあって色々変わるんで、なんか、私はあんまりあてにはしてなかった部分があります。まあ今の自分はこちらなんだっていう、参考程度でしたね。それに、就職活動をしている段階で、その検査

をやってみると公務員とかそういう系の役所とかそういうのが上に出てきたこともあって、私は普通に民間で就職しようと思っていたので、いまさらこんなこと言われても変えれないよって思ったので、それでちょっと適性検査はあんまりあてにできなかった部分が大きかったりしました。

実際に就職活動をしてみて、実際のイメージと違ったことやギャップ

すごく感じました。自分の進路というか、確かに人生の転機みたいなのを今ここで自分の選択で決めるっていうのは、やっぱり就活っていうのはすごい大きなポイントとなる部分だと思いました。あと、アルバイトとかと違って社会に出て行くっていう、自分が一人、社会人としてひとつの責任を負わなければいけないんだっていうのを、これからその場に立っていくんだっていうその気持ちにさせてくれる感じだったかなと思います。その、人生の転機っていう意味では、確かに怖かったですね。もう止めてしまいたいっていうのは何回も思いましたね。責任をなるべく負いたくなかった。たとえば、そう、バイトだったら、いつでも自分でいっかと思ったら、めんどくさいと思ったら辞めれますから。学生っていうのもあるから、まあいっかって思うのもあるし。でも会社ではそれはできないし、それが求められてるっていうのもありますし、プレッシャーはすごくありました。

SPI や TOEIC について

SPI は勉強しておいたほうが良いと思います。私はぜんぜん勉強していなかったので、参考書をひとつ買ってばらばらとやっていたくらいなので、その部分の対策はあまりしていなかった。したほうが良いと思います。企業を受けるならけっこうこの企業でやっぱりテストセンターとかで受けたとかテストで SPI とかが出たりするので、そういう対策は三年になって直前にするよりはこつこつとやっていって、簡単な問題なので感覚を取り戻しておくのは大事なのかなと。SPI の問題はそれ自体は簡単だけど、時間がかかり早くとかなきゃいけないんですよ。問題自体が解けてもそれに時間がかかってしまったら結局あまり最後のほうまで問題がいかなくて点数が悪いていうことがあると思うので、早く正確に解けるように訓練っていう形で臨んでおいた方がいかなと思います。

TOEIC もぜんぜん受けてないんですよ。でも、やっぱり TOEIC とかを求めてくる企業とかも多いし、会社に入ってから求められたりする場合も多いので、勉強しておくことにしたことはないと思います。

インターンシップや資格について

インターンシップには学校側が開いているのもあるし、自分から見つけるのがあります。どっちでもいいので一応行っておいたほうが士気も高まると思います。自分も就活サイトに載ってる企業が募集をしていたのでそれに応募して、一日だけですけど参加したこ

とがあります。企業の話も聞けるっていうので、そういう面でもよかったし、周りの就活生の人と話ができるっていうので、私は関西のほうに就職したくて、地元には帰らないつもりでいたのです。ここ徳島じゃないですか。関西まで行くのに時間がかかったりして、関西の就活生とのギャップみたいなものをすごくインターンシップに行ったときも感じました。やっぱりこの狭い空間だけを見てたらぜんぜん違うので。そういう意味で自分をがんばる、みんなもっとがんばってるんだっていうのを確かめに行くためにも、まだインターンシップの段階ではまだ就職活動っていうのも本格的には始まってないけど、行ってこれからは備えようっていう、自分の気持ちを高めようっていう形で利用したりしました。あと私は二年生の時に学校側のインターンシップの授業も受けていたんですけど、でも二年の時に受けて失敗したなと思いました。三年のときに行くとけばよかったなって思いました。もう一回、三年の時に受けて授業を聞きつつ、その情報がもらえるから、三年の時に受けてもよかったなっていう。まあでも、士気を高めるのにはいいのかもしれないです。資格は、何も取ってないですね。私の目標には資格は取らなくてもよかったのですが、証券会社とか銀行だとかだと簿記とかいろいろな資格があるじゃないですか、興味がなかったんで取らなかったんですけど、何かそういう系の目標があるのならどんどん取っていったほうがいいと思うし、自分のまわりの友達も、銀行がいいってずっと言ってる子だったら取りに行ったりそれにむけて勉強したり、有利だからっていうので取りに行っていたので、自分の目指す職種とか業種とかもし興味があるんだしたら、取っておいたほうが後々困らないかなと思います。それと地域システムだったら、社会調査士（の資格）はあまり役に立たない。一応見込みで取ったんですけど、そこに突っ込まれることはなかったです。空欄にしておくのもあれかなと思ったので、一応書いたんですけど。あまり触れられることはなかったです。でも、空欄よりはぜんぜんいいと思います。

就職活動で二三年次のうちにしておくべきこと

なんか就活中に言われたんですけど、後で後悔するかもしれないと思うのなら先にやっておけるっていうのをある企業の説明会で言われたことがありました。今朝新聞を読んでいなかったから面接で今朝の新聞のことを聞かれた時に答えられなくて後悔をしたっていう人がいたらしくて、そういう後悔をするくらいなら、先に自分の思いつく限りの準備をしておいて、そういう意味での準備万端で面接とかにも臨んだほうが、もし落ちたときにも自分はやれるだけのことはやったと思えるから自信にもなるし、後悔が少なくてすむので、就職活動の時は思いつくだけのやれることをして、そういう風にして個々の会社にも臨んだらいい。資格とかも今から必要だとわかっているものとか、もしかしたら必要になるかもしれないって思うものがあったら、積極的にまわりとかに流されずにこつこつやっ
くってというのが大事かなと思います。

あと、人とうまくコミュニケーションがとれるようにしておくっていうことは大事だと思います。人とコミュニケーションをとるのって本当に難しいと思うんです。私は口下手なので、あまり前に立って話すことが苦手なので、そういう意味でも人とコミュニケーションをとることがうまくいってないと思うし、かといってすごくおしゃべりな人とか、普通に人の前で話せるっていう人でも、まわりのことが考えられていないとそれはコミュニ

ケーションが取れているとは言えないと思うので、いかにまわりの中で自分がどんな役割を果たしているかとか。まわりを気遣えるかっていうとちょっと変なんですけど、まわりをよく見れる人にはなれたほうがいいっていうことで、コミュニケーションが大事っていうことと、視野と勉強と、そんな感じ。視野を狭めずに。最初から視野を狭くして就職活動をしたりとか、何とかやるやって明るい気持ちで臨むんじゃなくて、真剣に、就職活動をしている間はあつという間なので、それまでに勉強とか、自己分析とかをしておいて、いい意味で自分のことを悪いところとか良いところとか長所短所とかを含めて知っておくっていう作業をしておくで就職活動はやりやすくなると思います。